

交運労協

第30回交通運輸政策研究集会



5 月 19 日、都内において開催され、貨物鉄産労からは、鈴木教仁中央執行委員が参加しました。

冒頭、挨拶に立った池之谷議長は、ライドシェアや政治などに触れ、「我々の業界においては要員不足が発生し、日本各地・各組織から悲痛な声が上がっている。更に魅力ある交通運輸業界としていくために実りある第 30 回の集会としたい」と挨拶されました。

第一講演では、筑波大学田中洋子名誉教授より「キーワーカーが誇りもてる社会にするために」をテーマに、エッセンシャルワーカーである交通運輸産業について、ドイツ連邦共和国の構造や労働環境・給与などをベルリン交通局の場合を用いて説明があり、第二講演では、空港グランドハンドリング協会の曾原理事より業界問題の共有や政策的な成果について説明がありました。

その後、「交通運輸・観光サービス産業の人材確保のために対策を考える」というテーマに、田中教授、曾原理事、JR 連合石川局長、運輸労連坂井書記次長、交運労連慶島事務局長の 5 名によるディスカッションが行われ、「今後、進めていかなければならないことは、運輸産業が皆から選択される職業となるためにも、自職場においても綺麗で働きやすい職場環境を構築し、一つ一つの小さな積み重ねが、様々な人によって共有され、やがてそれが大きな人材確保に繋がっていくのではないかと、まとめられました。

最後に田中教授より

「労使が一体となり、この難局を乗り越えて欲しい」とエールがあり、会を終えました。